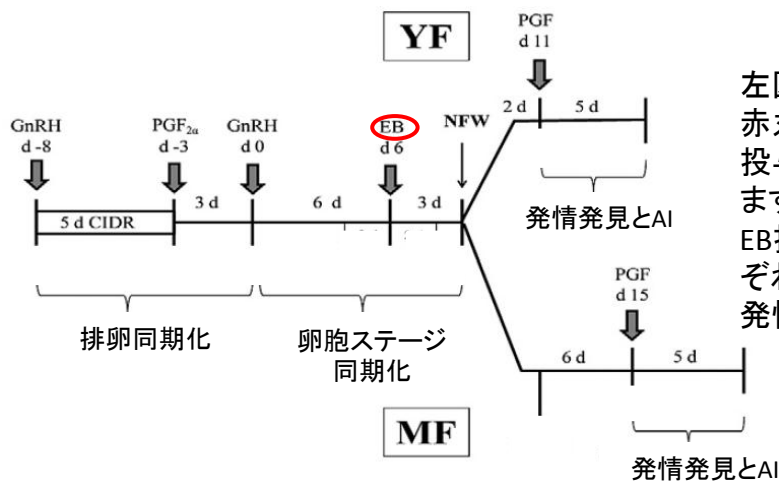


卵胞ステージが肉牛の受胎率に及ぼす影響

原題: Effect of follicle age on conception rate in beef heifers
(Journal of animal science 2014,92:1022-1028)

卵胞のステージにより受胎率に違いが生じるのかを調べた研究を紹介します。
一般的に同期化プログラムでは、排卵卵胞のサイズや卵胞ステージにより受胎率は影響をうけると言われています。
今回の研究では肉牛の未経牛に同期化処置後、排卵時期を操作して若い卵胞区(YF)と成熟卵胞区(MF)により受胎率に違いがあるかを調べています。



左図の同期化プログラムをおこないました。
赤丸のEB投与により、卵胞の発育をリセットさせ、投与の約3日後に新しい卵胞波(NFW)がはじまります。
EB投与より5日後(YF)と9日後(MF)にPGFをそれぞれ投与し黄体を退行させました。
発情から12時間後にAIをおこなっています。

結果

地域	処置	頭数	発情誘起率 (%)	PG投与から発情までの時間(時間) ¹	NFWからAIまでの日数(日) ¹	AI時の卵胞の大きさ(mm) ¹	受胎率 (%)
モンタナ	MF	53	92.5	55.8 ± 2.7 ^a	8.8 ± 0.11 ^a	11.0 ± 0.18 ^a	63.3
	YF	75	90.7	67.4 ± 1.6 ^b	5.3 ± 0.06 ^b	10.4 ± 0.15 ^b	64.7
オハイオ	MF	77	87.0	53.7 ± 2.2 ^a	8.9 ± 0.10 ^a		64.2
	YF	75	90.7	78.5 ± 1.4 ^c	5.8 ± 0.06 ^c		69.1

※^{a-c}異符号間に有意差あり(P < 0.01)。

※¹平均 ± 標準偏差

排卵の時期を操作することで、排卵卵胞の大きさとPG投与から発情までの時間に変化が生じました。しかしながら、NFWからAIまでの日数、卵胞の大きさとPG投与から発情までの時間は肉牛にとって受胎率には影響しないということが分かりました。

PGF投与のタイミングは卵胞の大きさや卵胞ステージを気にしなくても受胎率には影響を与えないと考えられます。